

令和3年12月15日

立川市議会

議長 福島正美 殿

立川市議会 議会改革特別委員会

委員長 山本みちよ

行政視察報告

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察月日

令和3年11月4日

2 視察地及び視察事項

視察都市名	視 察 事 項
あきる野市	便りリニューアルと現在の編集について

3 視察の概要及び所感

別紙のとおり

視察報告書

立川市議会 議会改革特別委員会
副委員長 対馬 ふみあき

1. 日 時：令和3年11月4日（木）10：00～11：10
2. 視察先：あきる野市議会（オンライン開催）
3. 視察者：山本みちよ委員長、対馬ふみあき副委員長、永元須磨子委員、頭山太郎委員、大沢純一委員、わたなべ忠司委員、山本洋輔委員
(全7名)
4. 目 的：議会報リニューアル「議会のジカン」ができるまで
5. 内容報告
説明員：あきる野市議会

(1)視察に至った経緯

東京都あきる野市は東京都多摩地域の西部に位置する総面積 73.47 km²、人口 79,223 名の市である。またあきる野市議会は 21 名で構成されている。

あきる野市議会は第8回マニフェスト大賞（ネット選挙・コミュニケーション戦略賞）において市議会だよりのリニューアルの取り組みが評価され優秀賞を受賞した。立川市議会議会改革特別委員会では、より良い議会だよりのありかたについての検討を行っているところであり、あきる野市における市議会だよりリニューアルを行うに至った状況や今後の課題等について視察をさせて頂いた。

(2)あきる野市が市議会だよりをリニューアルした理由

リニューアルあきる野市では市議会だよりを年4回（2月、5月、8月、11月）発行し、新聞折込によって市民に配達している。この市議会だよりの有効性を高めるべく平成7年に議会報編集特別委員会を設置、平成23年に調査研究グループを立ち上げ市民調査をしたところ、議会報が市民に読まれておらず、また他市と比較しても読み辛いと思われるという結果が分かった。当時あきる野市議会だよりは発行経費だけで約390万円の予算が計上されており、課題解決の必要性を感じ議会全体に合意形成を行いリニューアルに着手した。

(3)リニューアル内容

リニューアルを行うにあたり、まず初めに決めたことは「なにを」「いつまでに」という点である。あきる野市議会では「手に取ってもらえる表紙づくり」と「気づきを与える表現方法や読みやすさの工夫」を行い、平成25年2月1日発行の市議会だよりまでつまり1年4カ月で完成させるという目標を立てた。検討内容は「興味を引く特集と表紙（ターゲットの明確化）」「読みやすさ」「裏表紙」「議案審議、一般質問の分かりやすさ」の4点である。「興味を引く特集と表紙（ターゲットの明確化）」では号ごとに読者のターゲットを変えることで時間をかけて全ターゲットを獲得すること、「読みやすさ」ではより見やすい紙面づくりのために民間のデザイナーからアドバイスをもらうこと、「裏表紙」では小学生が夢を語るコーナーや啓発的な記事を裏表紙に乗せること、「議案審議、一般質問」では行政用語を通じる言葉にすること、知らせたいことと知りたいことの差を埋めることなどを実践した。

(4)リニューアル後

リニューアル後に行ったアンケート調査（平成25年）では200名に調査を行い、170名がリニューアル後の市議会だよりを支持した。また議会だよりの読者もリニューアル後は読んでいる・読むこともある、が57%であることなど市民が読みやすい市議会だよりに改善されたことが証明される結果になったことが分かった。

(5)今後の課題

あきる野市議会ではリニューアル後もコンセプトを守るために4年に1度の議会だより見直し検討を行っている。現在課題となっているのは配布方法で、税金の使い方として全市民に配布をする義務を感じているものの、現在は新聞折込と新聞折込地域外への配布のみであり、今後は全市民に届く仕組みづくりが課題であるという。

(6)質問事項

説明後、質疑応答の時間を頂いたため7名の議員から質問をさせて頂いた。

頭山委員：リニューアルにあたって議会内でどのように合意形成を図ったのか

回 答：市民に読まれていないという調査結果が非常に役に立った。まずは調査・研究から始めてみるのが良い

渡辺委員：事務局の仕事量はどうなったか

回 答：議会内で仕事の割り振りをしたことでリニューアル後は負担が減った。
しかし引き続きサポートが必要

大沢委員：「知らせたいことと知りたいことの差」はどのように埋めるのか

回 答：新人議員研修を行った上で広報公聴特別委員会と事務局でチェックすることで差を埋めている

永元委員：予算面ではどのような変化があったか

回 答：全体的に削減につながった。ただしデザイナーのアドバイス料は議員が個人的に連れてきたため経費はかかっている

山本委員：具体的に何が製本費の削減になったのか教えてほしい

回 答：素材をリサイクル紙にしたり、製本の手間を省くことで削減につながった

対馬委員：表紙のモデルはどのように依頼するのか

回 答：担当の議員がお声がけをしている。今までで困ったことはない

山本委員長：毎号特集を組むことで特集素材がなくなって困ったことはないのか

回 答：事前に特集案を議員同士で出し合い、その後も各議員のコネクションを通じて組んでいるので特に困ったことはない

(7)所感

今回あきる野市議会を視察させて頂き感じることは、議会内の合意形成の素晴らしさであると考え。課題を見つけ出し合意を得て解決に向かって委員会内だけではなく議会全体で年齢も期数も関係なく取り組む姿勢があきる野市議会だよりのリニューアルを成し遂げたと言える。立川市議会でもまずは議会内で全員が問題意識を共有することに注力し、課題の見える化を図る必要があると考え。他方で新たな課題も見えてきた。あきる野市議会では市議会だよりをリニューアルする過程において媒体をタブロイド紙からA4判に変更を行っている。見やすさとしてはこの変更は成功だと言えるが立川市のようにシルバー人材センターの方々が全戸配布するにはA4判は重過ぎる。タブロイド紙を継続するか、配布方法を見直すかはまだ先のこととはいえ市議会だよりの改善を検討するにあたっては課題となるだろう。

以上